

平成18年度事業報告書

学校法人東邦大学

目次

I. 法人の概要	
1. 沿革	1
2. 組織	1～2
3. 役員等	2
4. 大学・学部校・病院の長	2
5. 教職員数	2～3
6. 株式会社東邦キャンパスサービス	3
II. 事業の概要	
1. 教育研究の動向	
(1) 薬学部6年制がスタート	4
(2) 医学研究科医科学専攻修士課程・ 看護学専攻修士課程の開設	4
(3) ハイテク・リサーチ・センター	4
(4) オープン・リサーチ・センター	5
(5) 教学環境の整備	5
2. 学生生徒・入試等の状況	
(1) 入学定員・収容定員・在籍者数	6
(2) 平成19年度の入試状況	7
(3) 国家試験の状況	8～9
(4) 卒業生の就職状況	10
(5) 高等学校の大学合格実績	11
3. 医療	
(1) 付属3病院の概況	12
(2) 大森病院の再整備後の運営体制の確立	12
(3) 佐倉病院の増床に向けた院内体制の整備	12
(4) 佐倉病院のオーダーリングシステムの稼働	12
4. 管理運営	
(1) 中期経営計画の策定	15
(2) 医学部機構改革の推進	15
(3) ブランディング・プロジェクトの推進	15
(4) 創立80周年記念寄付金	15
III. 財務の概要	
1. 消費収支決算の概要	16
2. 設備投資等	16
3. 貸借対照表	17

学校法人東邦大学はブランディング・プロジェクトに取り組んでいます！



東邦大学

いのち
生命の科学で未来をつなぐ

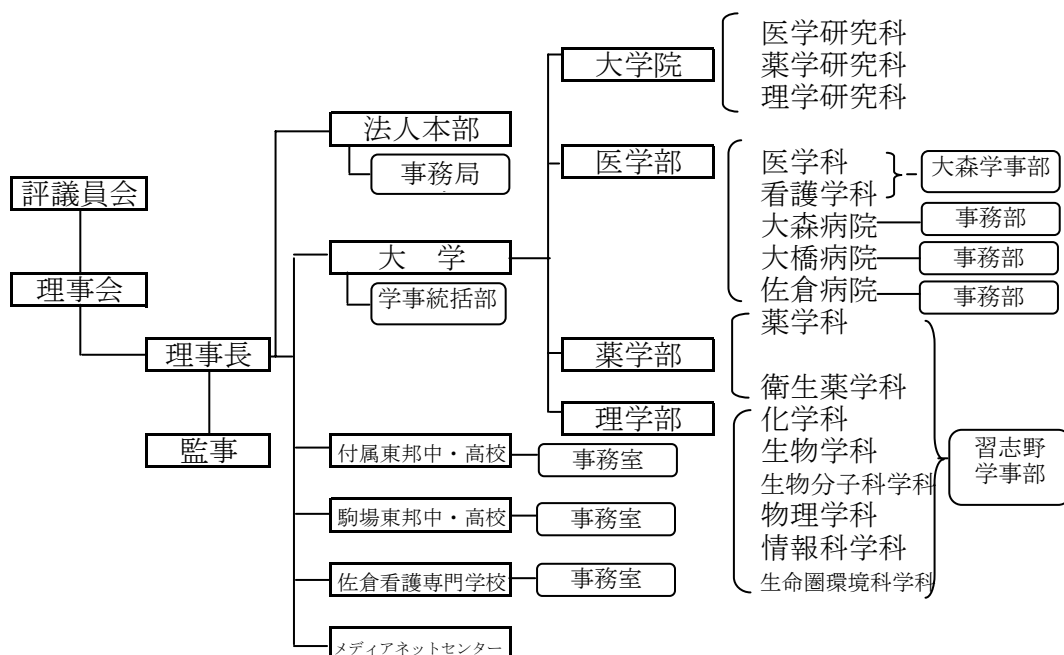
I. 法人の概要

1. 沿革

本学は、額田豊・晉兄弟により、大正14年に帝国女子医学専門学校として開設されました。昭和2年には薬学科を増設、昭和16年には帝国女子理学専門学校を開設し、昭和26年に東邦大学と改称し、医学部、薬学部、理学部をもつ自然科学系総合大学として80年の歴史を刻んできました。その間、中高等学校、看護学校を併設し、科学教育を通じた豊かな人間形成をモットーに、一貫した教育、研究、医療を実践してきました。

大正14年	1925	帝国女子医学専門学校 開設 帝国女子医学専門学校付属病院 開設
昭和2年	1927	帝国女子医学専門学校に薬学科を増設 帝国女子医学専門学校付属看護婦養成所 開設
昭和16年	1941	帝国女子理学専門学校 開設
昭和26年	1951	医科、薬科、理科専門学校を総称して、東邦大学とし、それぞれ医学部、薬学部、理学部と改称
昭和27年	1952	東邦大学付属東邦高等学校 開設
昭和32年	1957	駒場東邦中学校 駒場東邦高等学校 開設
昭和34年	1959	東邦大学大学院医学研究科開設
昭和36年	1961	東邦大学付属東邦中学校 開設
昭和39年	1964	東邦大学医学部付属大橋病院 開設
昭和40年	1965	東邦大学医学部付属高等看護学校 開設
昭和54年	1979	東邦大学大学院薬学研究科医療薬学専攻修士課程 開設 (博士課程：昭和56年開設)
昭和57年	1982	東邦大学大学院理学研究科化学・生物学専攻修士課程 開設 (化学・生物学専攻博士課程：昭和59年開設) (物理学専攻修士・博士課程：昭和61年・63年開設) (生物分子科学専攻 情報科学専攻修士・博士課程：平成5年・7年開設)
昭和60年	1985	東邦大学医療短期大学看護学科 開設
平成3年	1991	東邦大学佐倉看護専門学校 開設 東邦大学医学部付属佐倉病院 開設
平成14年	2002	東邦大学医学部看護学科 開設
平成18年	2006	東邦大学大学院医学研究科医科学および看護学専攻修士課程 開設 東邦大学薬学部薬学科(6年制) 開設

2. 組織



1. 法人の概要

2. 組織

[学部校・病院等の所在地]

学校法人東邦大学法人本部	〒143-8540	大田区大森西5-21-16
東邦大学学事統括部	〃	〃
医学部	医学科	〃
	看護学科	〒143-0015 大田区大森西4-16-20
薬学部	〒274-8510	船橋市三山2-2-1
理学部	〃	〃
付属東邦中・高校	〒275-8511	習志野市泉町2-1-37
駒場東邦中・高校	〒154-0001	世田谷区池尻4-5-1
佐倉看護専門学校	〒285-0841	佐倉市下志津292-13
大森病院	〒143-8541	大田区大森西6-11-1
大橋病院	〒153-8515	目黒区大橋2-17-6
佐倉病院	〒285-8741	佐倉市下志津564-1

3. 役員等

4. 大学・学部校・病院の長

①理事・監事 平成19年3月31日現在

平成19年3月31日現在

理事	理事長	伊藤 元博
〃	東邦大学学長	青木 継稔
〃	常務理事	加藤 濟仁
〃	〃	笹川 義弘
〃	医学部長	黒田 優
〃	薬学部長	井手 速雄
〃	理学部長	小野 嘉之
〃	大森病院長	山崎 純一
〃	付属東邦中高校長	秋山 尚功
〃	医学部教授	丸山 優
〃	薬学部教授	加藤 文男
〃	理学部教授	大島 範子
〃	東邦大学名誉教授	柴田 家門
〃	薬学部鶴風会理事長	福武 勝彦
〃	理学部鶴風会理事長	加藤 尚之
〃	医学部教授	炭山 嘉伸
監事	公認会計士	都丸 信
〃	弁護士	西込 明彦

大学長	青木 継稔
医学部長・医学科長	黒田 優
医学部看護学科長	杉本 正子
薬学部長	井手 速雄
理学部長	小野 嘉之
大森病院長	山崎 純一
大橋病院長	甲田 英一
佐倉病院長	白井 厚治
付属東邦中高校長	秋山 尚功
駒場東邦中高校長	工藤 功悦
佐倉看護専門学校長	白井 厚治

②評議員 甲田英一 他53名

5. 教職員数

教職員総合計
3,445人
(常勤嘱託・非常勤職員は除く)

教員 平成18年5月1日現在

	教授	助教授	講師	助手	計
医学部	99	66	100	248	513
薬学部	23	15	16	16	70
理学部	56	36	15		107
合計	178	117	131	264	690

	教諭		講師		専任教員	計	非常勤講師	
	中学	高校	中学	高校			中学	高校
付属東邦中高校	39	54	3	1		97	8	18
駒場東邦中高校	38	38				76	17	14
佐倉看護専門学校					12	12		
合計	77	92	3	1	12	185	25	32

職員

	事務	技術	医療技術	看護	技能	その他	計
法人本部	45			2			47
学事統括部	9						9
医学部	8	21					29
大森学事部	26					1	27
大森病院	113		237	927	19	4	1,300
大橋病院	66		131	418		2	617
佐倉病院	75		67	305	1		448
薬学部	1				1		2
理学部		3					3
習志野学事部	37			1			38
付属東邦中高校	7	1					8
駒場東邦中高校	7						7
佐倉看護専門学校	3						3
メディアネット センター	32						32
合計	429	25	435	1,653	21	7	2,570

6. 株式会社東邦キャンパスサービス

平成12年9月に本法人が100%出資し、資本金20百万円で設立した営利法人です。

本法人が保有する資源を積極的に活用し、費用の内部還元、外部資金の獲得を目指し本法人の教育、研究、医療を支援することが目的です。

第6期（平成17年9月1日～平成18年8月31日）決算は、売上高が37.2億円で前期比プラス16%と順調に業績を伸ばしました。施設管理、物品販売の両事業が、全体の93%を占めています。

当会社の事業であげた利益は、本法人の教育、研究、医療に役立てており、6期累計寄付総額は2億円を超えています。

II. 事業の概要

1. 教育研究の動向

(1) 薬学部6年制がスタート

平成18年度より、薬学部では6年制を開始しました。

薬学部6年制移行の背景には、医療技術の進歩、チーム医療の重視により、医療現場における系統的な知識、理解力に加え、薬剤師として分担すべき責任が求められていることが上げられます。もう一つの背景は、新卒薬剤師の実務能力向上の必要性です。従来の薬学教育が基礎科学教育に重点を置いてきたため、新卒薬剤師の実務能力が不足していたことの反省からです。

本学薬学部では、これらの時代背景から、4年制から6年制教育へ移行し、さらに高度な知識と実践能力を備えた質の高い薬剤師の育成を目指しています。

長期実務実習などの実践教育を充実させたカリキュラムと附属3病院との連携をより強化し東邦ならではの総合力を活かし、「臨床に強い薬剤師」の育成を実践していきます。

また、後述する平成19年8月に竣工予定の薬学部新棟は、少人数教育用の小講義室、モデル薬局、モデル病棟、臨床薬学研修センターなど、これからの新しい薬学教育を支える場を提供していきます。

(2) 医学研究科医科学専攻修士課程・看護学専攻修士課程を開設

平成18年度より医学研究科医科学専攻修士課程と看護学専攻修士課程を開設しました。研究者の育成と高度な知識と技能を持つ専門的な職業人の育成を目的にしています。

医科学専攻は、入学定員5名で、自然科学系だけではなく、人文・社会科学系の学部卒業者も対象にし、医学、医療の幅広い専門職の養成を目指しています。

看護学専攻は、入学定員12名で、社会人が仕事をしながら学ぶ便宜を考え、昼夜開講の時間割りを組んでいます。出願資格は、学士号取得者でなくても出願審査が受けられ、看護の資格を必須条件としないなど門戸は広く開放しています。

(3) ハイテク・リサーチ・センター

理学研究科の「複合物性研究センター」で行っている研究です。物質化学研究の分野における化学専攻と物理学専攻の協力関係をさらに深め、生体系の研究分野やフォトポリマー等現実の応用分野まで広げることによって、新規な多機能有機物質の設計・合成ならびにその物性評価を行い、近い将来における電子機器その他デバイスのための素材物質や特異な光応答材料の開発を目指す研究です。

文部科学省の平成17年度私立大学学術研究高度化推進事業ハイテク・リサーチ・センター整備事業（予算：5年間で547,553千円）に選定されたものです。

平成19年3月には第1回の「複合物性研究センターフォーラム2007」を開催し、研究の成果が報告されました。

(4) オープン・リサーチ・センター

がん、糖尿病、高脂血症、アルツハイマー病、老人性痴呆症などの疾患について、その分子構造を明らかにし、予防や治療の開発を目標として、薬学部老化・老年研究センターを発足しました。この研究プログラム「細胞機能制御システムの破綻による老化関連疾患発症の分子機構と予防・治療に関する研究」が、文部科学省の18年度私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業（予算：5年間で267,800千円）に選定されました。

(5) 教学環境の整備

①薬学部新棟

薬学部新棟は、平成18年度の工事を経て、平成19年8月完成の予定です。6年制薬学教育の中核となるこの新棟は、大講堂をはじめ学内モデル薬局、モデル病棟、少人数教育を行うための少人数教室を数多く設置します。

②その他教学施設の整備

ア) 医学部本館トイレ工事、イ) 薬学部修学館トイレ改修工事、ウ) 附属中高校舎耐震補強工事などを順次実施いたしました。さらにきめ細かく、日常管理を含めた教学施設の整備に努めてまいります。

Ⅱ. 事業の概要

2. 学生生徒・入試等の状況

(1) 入学定員・収容定員・在籍者数

学生生徒の在籍数は、8,131人で、昨年度に比べて82人の増加となっています。平成17年度に開設し、2年目を迎えた理学部生命圏環境科学科、平成18年度開設の医学研究科修士課程などが増加の要因です。

平成18年5月1日現在

大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	在籍者数
医学研究科	修士	17	34	15
	博士	23	92	107
薬学研究科	修士	50	100	109
	博士	5	15	23
理学研究科	修士	81	162	171
	博士	21	63	40

大学

学部	学科	入学定員	収容定員	在籍者数
医学部	医学科	100	600	634
	看護学科	108	419	446
薬学部	薬学科(6年制)	220	1,320	249
	薬学科(4年制)	-	-	795
	衛生薬学科(4年制)	-	-	
理学部	化学科	80	320	382
	生物学科	80	320	379
	生物分子科学科	80	320	373
	物理学科	70	282	312
	情報科学科	100	400	438
	生命圏環境科学科	80	320	159

中高校

	入学定員	収容定員	在籍者数
附属東邦高等学校	368	1,104	1,074
附属東邦中学校	270	810	890
駒場東邦高等学校	250	750	702
駒場東邦中学校	250	750	718

専門学校

	入学定員	収容定員	在籍者数
佐倉看護専門学校	40	120	115

	入学定員	収容定員	在籍者数
合 計	2,293	8,301	8,131

II. 事業の概要 2. 学生生徒・入試等の状況

(2) 平成19年度の入試状況

大学は、19年度は前年度を上回ることができましたが、過去5年間の推移を見れば出願者の減少傾向が続いています。来年度以降、さらに全学挙げての努力が必要です。

大学院

研究科	課程	募集人員	志願者数	入学者数
医学研究科	修士 (医科学専攻)	5	3	3
	修士 (看護学専攻)	12	10	9
	博士	23	39	34
薬学研究科	修士	50	50	41
	博士	5	5	5
理学研究科	修士	81	126	82
	博士	21	8	8

大学

学部	学科	募集人員	志願者数	入学者数
医学部	医学科	100	1,990	100
	看護学科	105	512	115
薬学部	薬学科	220	2,289	237
理学部	化学科	80	1,265	94
	生物学科	80	1,072	111
	生物分子科学科	80	784	107
	物理学科	70	547	86
	情報科学科	100	757	119
	生命圏環境科学科	80	819	82

中高校

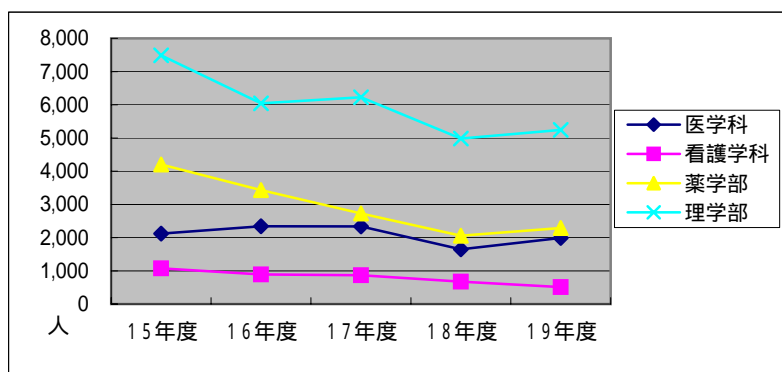
	募集人員	志願者数	入学者数
附属東邦高等学校	80	968	118
附属東邦中学校	270	2,926	371
駒場東邦中学校	240	764	240

内部進学者は除く

専門学校

	募集人員	志願者数	入学者数
佐倉看護専門学校	40	139	46

◇ 3学部における過去5カ年の志願者数の推移



学部	学科	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
医学部	医学科	2,120	2,340	2,335	1,647	1,990
	看護学科	1,076	891	869	677	512
薬学部		4,202	3,431	2,730	2,059	2,289
理学部		7,491	6,043	6,226	4,982	5,244
合計		14,889	12,705	12,160	9,365	10,035

II. 事業の概要 2. 学生生徒・入試等の状況

(3) 国家試験の状況

国家試験の結果は、本学の特色の一つである医療系の職能教育を評価するうえで、重要なものの一つです。

平成19年の医師国家試験の合格率は、92.2%と昨年度より若干下回ったものの、全国平均を上回り、まずまずの結果といえます。

薬剤師国家試験は、85.6%で前年度比2.2%と好転しています。

看護師・保健師・助産師国家試験は、医学部看護学科、佐倉看護専門学校とも100%ないしは、それに近い結果をそれぞれ残すことができました。

また、臨床検査技師国家試験は、87.1%と過去10年で最も高い合格率でした。

◇ 医学部医学科

医師国家試験

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
平成17年 (上記のうち新卒)	111 (97)	95 (84)	85.6 (86.6)	89.1
平成18年 (上記のうち新卒)	111 (95)	104 (91)	93.7 (95.8)	90.0
平成19年 (上記のうち新卒)	116 (109)	107 (102)	92.2 (93.6)	87.9

◇ 医学部看護学科

看護師国家試験

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
平成18年 (上記のうち新卒)	102 (102)	99 (99)	97.1 (97.1)	88.3
平成19年 (上記のうち新卒)	110 (107)	108 (106)	98.2 (99.1)	90.6

注 平成17年は卒業生なし

保健師国家試験

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
平成17年 (上記のうち新卒)	22 (22)	21 (21)	95.5 (95.5)	81.5
平成18年 (上記のうち新卒)	107 (107)	80 (80)	74.8 (74.8)	78.7
平成19年 (上記のうち新卒)	128 (111)	128 (111)	100.0 (100.0)	99.0

注 平成17年は医療短期大学専攻科

助産師国家試験

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
平成17年 (上記のうち新卒)	15 (14)	14 (13)	93.3 (92.9)	99.7
平成18年 (上記のうち新卒)	14 (14)	13 (13)	92.9 (92.9)	98.1
平成19年 (上記のうち新卒)	11 (10)	10 (10)	90.9 (100.0)	94.3

注 平成17年は医療短期大学専攻科

II. 事業の概要 2. 学生生徒・入試等の状況 (3) 国家試験の状況

◇ 薬学部

薬剤師国家試験

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
平成17年 (上記のうち新卒)	303 (259)	279 (253)	91.8 (97.7)	84.4
平成18年 (上記のうち新卒)	283 (244)	236 (219)	83.4 (89.8)	74.3
平成19年 (上記のうち新卒)	305 (249)	261 (225)	85.6 (90.4)	75.6

◇ 理学部

臨床検査技師国家試験

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
平成17年 (上記のうち新卒)	38 (38)	27 (27)	71.1 (71.1)	75.2
平成18年 (上記のうち新卒)	41 (41)	32 (32)	78.0 (78.0)	72.9
平成19年 (上記のうち新卒)	31 (31)	27 (27)	87.1 (87.1)	74.7

18年、19年は早期卒業および秋季卒業生を含む

◇ 佐倉看護専門学校

看護師国家試験

	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	全国平均 (%)
平成17年 (上記のうち新卒)	33 (33)	33 (33)	100.0 (100.0)	91.4
平成18年 (上記のうち新卒)	41 (41)	40 (40)	97.6 (97.6)	88.3
平成19年 (上記のうち新卒)	32 (31)	32 (31)	100.0 (100.0)	90.6

II. 事業の概要 2. 学生生徒・入試等の状況

(4) 卒業生の就職状況

医学部医学科の付属病院に進んだ卒業生は56人、看護学科は54人です。
薬学部では就職率97%で、病院、薬局への就職件数が136人で全体の76.4%を占めています。

理学部では就職率99.6%とほぼ全員が就職を決定しています。

佐倉看護専門学校は、31人の卒業生全員が、付属病院に就職しました。

平成19年3月卒業生

医学部

	付属病院	他施設	進学	その他	合計
医学科	56	46	0	7	109
看護学科	54	52	4	1	111
合計	110	98	4	8	220

薬学部

	病院	薬局	製造業	公務員
求人件数	614	370	69	66
就職件数	38	98	17	2
	その他	合計	就職率	
求人件数	76	1,195	97%	
就職件数	23	178		

理学部

	製造業		医療・保健	教育	公務員
	化学工業	その他			
求人件数	120	231	73	62	118
就職件数	30	38	10	16	3
	その他 (情報・サービス)	合計	就職率		
求人件数	856	1,460	99.6%		
就職件数	177	274			

佐倉看護専門学校

	付属病院	他施設	進学	その他	合計
看護学科	31	0	0	0	31

(5) 高等学校の大学合格実績

東邦大学附属東邦高等学校

国公立	合格者数	うち現役	私立	合格者数	うち現役
東京	5	2	東邦	59	54
京都	2	0	早稲田	64	34
一橋	3	1	慶應	48	25
東京工業	7	6	上智	28	17
東京医科歯科	3	1	ICU	6	2
千葉	30	24	東京理科	145	101
筑波	7	2	明治	77	63
横浜国立	4	3	中央	25	16
東京農工	11	6	日本	38	23
東北	3	1	立教	47	29
その他	35	16	その他	409	303
合計	110	62	合計	946	667
うち医歯薬	19	-	うち医歯薬	131	-

駒場東邦高等学校

国公立	合格者数	うち現役	私立	合格者数	うち現役
東京	42	32	東邦	7	5
京都	4	2	早稲田	88	53
一橋	9	7	慶應	99	65
東京工業	10	8	上智	18	13
東京医科歯科	4	1	ICU	3	1
千葉	8	6	東京理科	51	15
筑波	5	4	明治	15	3
横浜国立	4	1	中央	18	4
東京農工	5	4	日本	5	4
東北	4	3	立教	3	0
その他	34	15	その他	78	33
合計	129	83	合計	385	196
うち医歯薬	38	-	うち医歯薬	52	-

II. 事業の概要

3. 医療

(1) 付属3病院の概況

大森病院は入院収入16,949百万円、外来収入5,981百万円、佐倉病院は入院収入4,790百万円、外来収入3,184百万円とそれぞれ前年度を上回ることができました。大橋病院は入院収入が7,377百万円、外来収入が2,776百万円と前年度を下回りました。

入院では、1日当患者数が大森病院857.4人、大橋病院412.0人、佐倉病院279.8人、1人1日当診療収入が、大森病院54,160円、大橋病院49,060円、佐倉病院46,904円でした。

外来では、1日当患者数が、大森病院2,308.4人、大橋病院1,295.8人、佐倉病院1,292.5人、1人当診療収入が、大森病院9,220円、大橋病院7,624円、佐倉病院8,767円でした。(P13~14別表)

(2) 大森病院の再整備後の運営体制の確立

平成17年11月の理事会に報告しました「大森病院再整備実施報告」に沿って、再整備後の運営体制を次のとおり整備してきました。

①先進医療3件の承認

平成18年度は3件の承認を受け、昨年度の2件を合わせると現在、5件が承認されています。今後も、特定機能病院にふさわしい先進医療の推進に努めてまいります。

②地域医療連携の推進

平成18年4月からの大田区平日準夜間小児初期救急診療事業の開始など、地域の開業医、病院との連携強化を進めています。

③7対1看護体制の実施

平成18年度診療報酬改訂で、7対1の看護配置基準が盛り込まれ、当病院でも、看護職員1人が患者7人を受け持つ体制を18年6月より実施し、安全で質の高い医療を目指しています。

④自動再来受付機の増設による待ち時間の短縮

(3) 佐倉病院の増床に向けた院内体制の整備

佐倉病院増床計画は、平成17年9月の理事会で承認された「佐倉病院増床計画の推進について」に沿って実施しています。平成19年7月に増床工事が完成し、9月より一部使用を開始します。フルオープンは20年4月です。

センター化の推進、救急部門や中央施設部門の充実、医療連携・患者支援センターによる病診連携の強化等の院内体制の整備に努めてまいりました。今後も、診療単位ごとに「診療ユニット会議」をもちチーム医療を充実させ、さらに院内体制の整備に努めてまいります。

(4) 佐倉病院のオーダーリングシステムの稼働

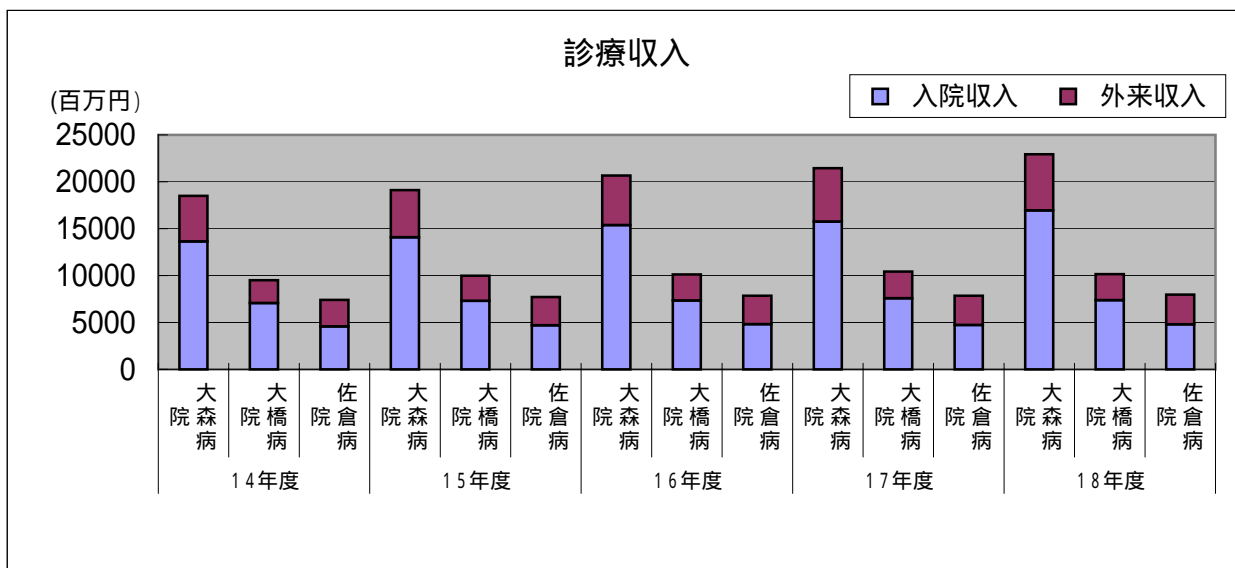
平成17年8月にスタートした「オーダーリングシステム導入プロジェクト」は、大森・大橋病院の先例に倣い、その成果を最大限に生かして、大学病院として最も先進的かつ経済性の高いIT環境を整備しようという計画であり平成18年6月に稼働しました。病院全職員で医療情報を共有し、効率のよい、安全性の高いチーム医療の提供が期待されます。

◇ 病院別・診療統計別推移

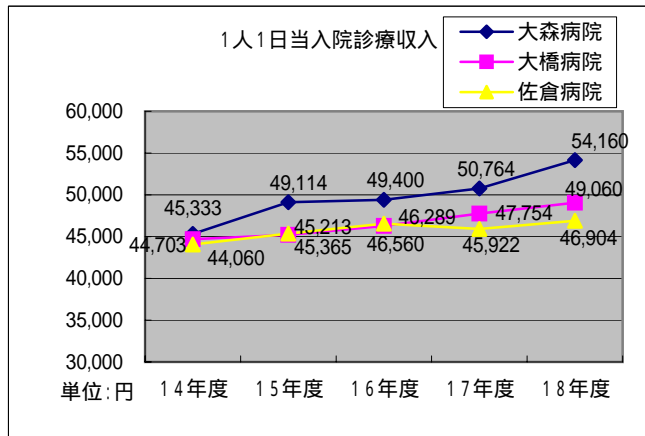
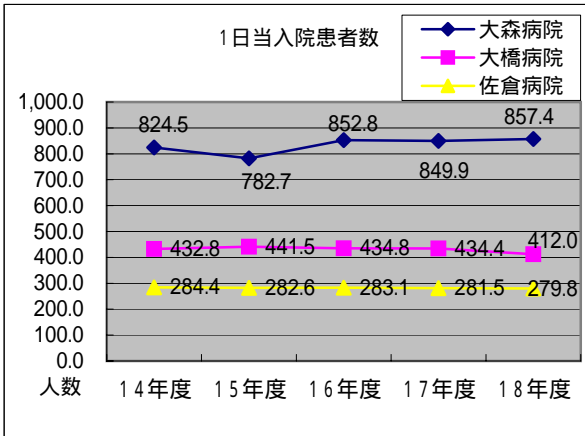
①診療収入

(百万円)

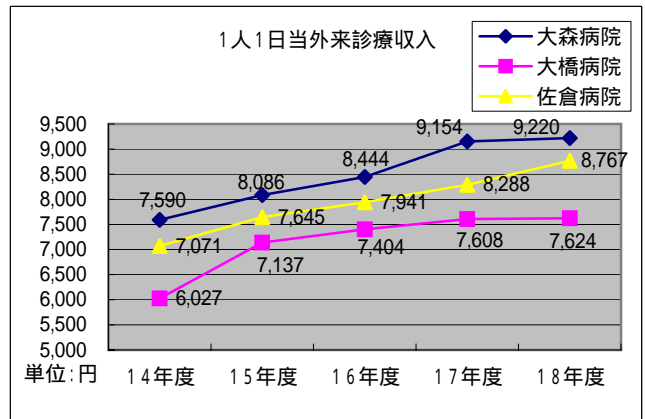
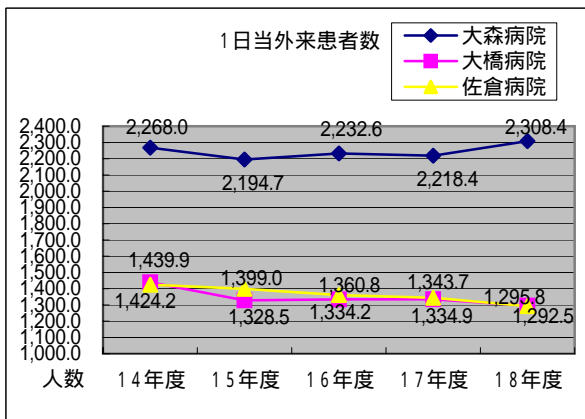
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
大森病院	診療収入	18,497	19,109	20,673	21,454	22,930
	入院収入	13,643	14,087	15,376	15,748	16,949
	外来収入	4,854	5,022	5,297	5,706	5,981
大橋病院	診療収入	9,508	9,989	10,122	10,425	10,153
	入院収入	7,061	7,306	7,346	7,571	7,377
	外来収入	2,447	2,683	2,776	2,854	2,776
佐倉病院	診療収入	7,413	7,719	7,848	7,848	7,974
	入院収入	4,573	4,692	4,811	4,719	4,790
	外来収入	2,840	3,027	3,037	3,129	3,184



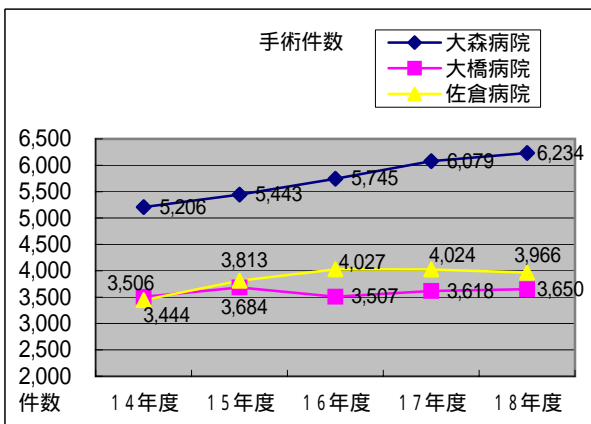
②入院



③外来



④手術件数



II. 事業の概要

4. 管理運営

(1) 中期経営計画の策定

平成19年度～21年度の中期経営計画を策定し、平成19年3月の理事会において承認されました。要旨は以下のとおりです。

1. 大学のグランドデザインの策定
2. 戦略的な広報の実施
3. 国家試験の高位安定化
4. 研究の活性化
5. 医学科 : 機構改革の実施 ハイテクリサーチセンターの設置
6. 看護学科 : 大学院博士課程の設置 専門看護師課程認定
7. 薬学部 : 6年制の臨床の充実
8. 理学部 : 入学者数の定員の1.1倍の維持 教育・研究費の競争的配分の実施
11. 附属東邦中高校 : 建学理念を具現化するための教育の推進
13. 駒場東邦中高校 : 50周年記念事業 ・教員の増員
14. 佐倉看専 : 学生の確保
15. 3病院 : 診療体制・看護体制の強化 地域連携 大橋病院新棟の検討
佐倉病院増床計画の推進

(2) 医学部機構改革の推進

医学部機構改革は、制度の基本理念とビジョンに沿って、平成20年度の完成を目標に改革事業を推進しています。講座・研究室の統合再編、人員の適性配置、3病院診療科統合および3病院将来構想などについて、平成20年度までに検討していきます。

平成16年の新臨床研修医制度発足とともに本学の研修医も減少しました。人材を確保し今後の診療体制を整備するためには、研修医を確保し、レジデント、シニアレジデントと一貫した教育をすることが必要です。

(3) ブランディング・プロジェクトの推進

平成17年9月から始まりました当プロジェクトは、学生、教職員25名を集めて「東邦ブランドを創る会」ワークショップを経て、「東邦の約束価値」「ステートメント」「コミュニケーションマーク」が理事会で承認されました。さらに、「大学入試委員会」「法人広報委員会」を設置し、法人全体あるいは大学の広報のあり方を検討してきました。今後、これらの決定されたことや検討した次のことがらについてさらに推進してまいります。

1. ステーションナリー、サイン、広告媒体の一新（シンボル）
2. オープンキャンパス・公開講座などの強化（コミュニケーション）
3. 教育、研究、医療におけるグランドデザインの構築（行動）

(4) 創立80周年記念寄付金

平成18年度は283件の方々から、186,516,500円のご寄付をいただき、累計では1,500件で376,922,500円のご寄付を頂戴いたしました。ご寄付いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

Ⅲ. 財務の概要

(1) 消費収支決算の概要

平成18年度決算は、帰属収入63,663百万円、消費支出62,593百万円で、帰属収支差額は1,069百万円の黒字となりました。前年度決算に比べ収支は537百万円改善いたしました。また、予算と比較しますと、収支は赤字から1,593百万円、大幅に好転しています。主な要因の一つとして、病院収支の改善が図られたことが挙げられます。

基本金は1,977百万円を組入れ、年度末の基本金組入高は117,374百万円となりました。

尚、基本金組入後の当年度消費収支差額は907百万円の支出超過で、翌年度繰越消費支出超過額は62,945百万円となっております。

予算(補正後)との対比では、先ず収入は、手数料、補助金、医療収入が予算を下回り、その他は予算を上回りました。このうち補助金は大学に対する経常費補助金の交付額が当初予想に比べ減少したため283百万円、医療収入は18年度の診療報酬のマイナス改定の影響度合いを当初予算に織り込んでいなかったことから793百万円、夫々予算を下回りました。学生生徒等納付金は、入学者数が当初予想に比べ増加し94百万円、寄付金は、創立80周年記念の特別寄付金および学生のご父母等からの一般寄付金が増えたため617百万円、雑収入は、退職者の増加に伴う私立大学退職金財団交付金の増額等により361百万円、夫々予算を上回りました。

これらの結果、帰属収入合計では、予算を112百万円上回りました。

尚、ご芳志を頂戴いたしました寄付者の皆様には心より御礼を申し上げる次第です。

一方、支出では、人件費が予算を260百万円下回ったほか、教育研究経費418百万円、管理経費202百万円、医療材料費も576百万円、夫々予算を下回っております。予算を超過した科目では、老朽化等で使用不能となった機器備品等の固定資産の資産処分差額が165百万円、未入金等徴収不能による損失に備えるための徴収不能引当金繰入額が61百万円、夫々予算を上回りました。当初予算には未計上であったためです。

これらの結果、消費支出の部合計は1,482百万円予算を下回りました。

また、基本金への組入額は、校地・校舎・機器備品・図書等に対する支出額である第1号基本金への組入額が総額では予算を1,027百万円下回りました。(別紙1-1~1-4)

(2) 設備投資等

本法人は、教学環境の一層の充実と、医療センター3病院等における高度先進医療の推進に向けたインフラ整備に全力を挙げております。

前年度から佐倉病院増築工事、薬学部医療薬学教育棟新築工事が夫々進行中ですが、当年度は薬学部新棟関係では685百万円、医学部では賃借中の校地の底地権購入費で100百万円、附属東邦中高の校舎耐震補強工事で197百万円、等の設備投資を実施いたしました。これらの施設費、設備費等に充てられた設備投資額は総額2,334百万円で、当年度が端境期に当たったこともあり前年度比では4,781百万円減少しています。(別紙2-1)

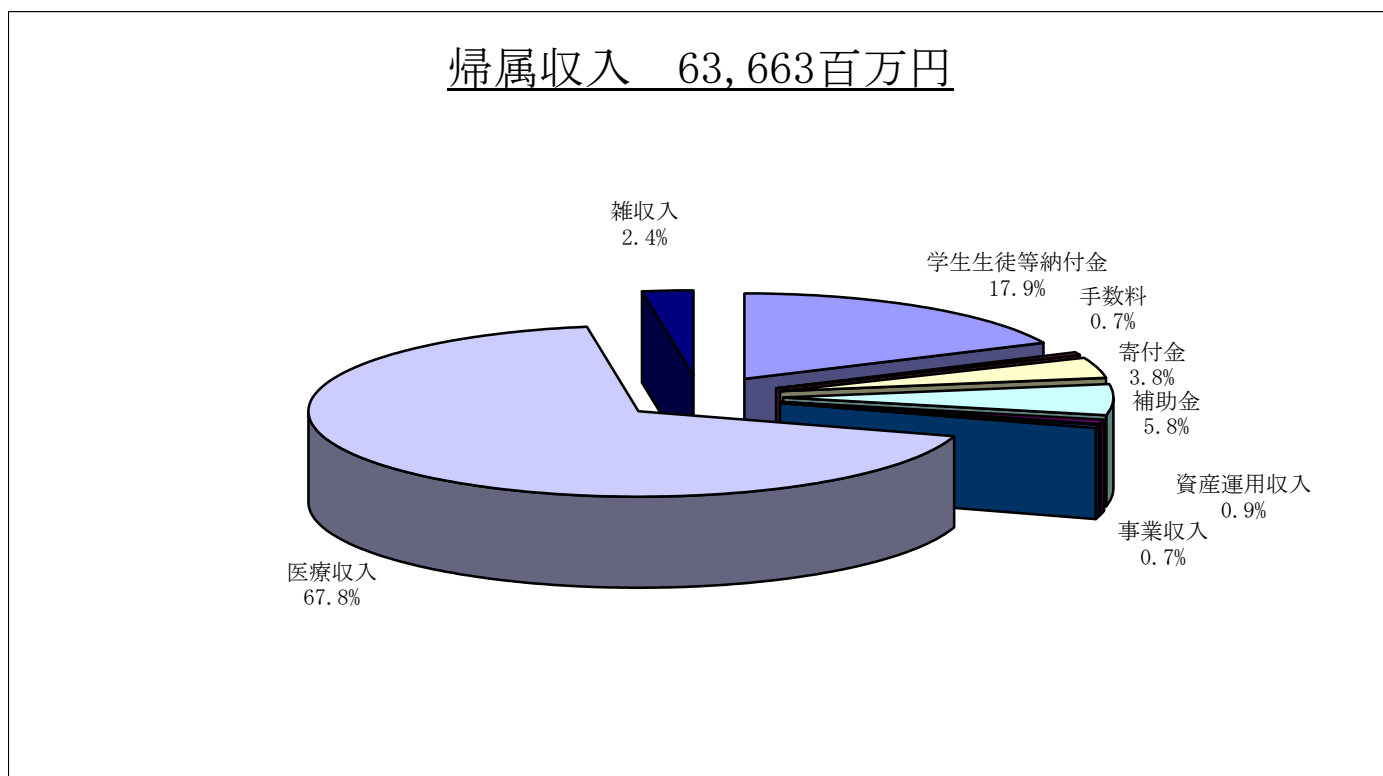
Ⅲ. 財務の概要

(3) 貸借対照表

平成18年度末の総資産は103,116百万円で、前年度に比べ292百万円増加いたしました。負債は48,687百万円で前年度比779百万円減少しております。その内、借入金
は、長期借入金の新規借入額以上に返済が進んだことにより前年度比787百万円残高が
減少いたしました。

総資産から負債を差引いた正味財産(自己資金)は54,428百万円となり、1,070百
万円前年度から増加いたしました。(別紙3-1~3-2)

平成18年度消費収支計算書（当該年度における収支の状況を明らかにするもの）



〔消費収入の部〕

(単位：百万円)

科目	予算	決算	帰属収入に対する構成比	差異
学生生徒等納付金	11,319	11,413	17.9%	△ 94
手数料	452	450	0.7%	2
寄付金	1,775	2,392	3.8%	△ 617
補助金	3,990	3,707	5.8%	283
資産運用収入	540	542	0.9%	△ 2
資産売却差額	0	3	0.0%	△ 3
事業収入	338	450	0.7%	△ 112
医療収入	43,983	43,190	67.8%	793
雑収入	1,150	1,511	2.4%	△ 361
帰属収入合計（ア）	63,551	63,663	100.0%	△ 112
基本金組入額合計	△ 3,004	△ 1,977	-	△ 1,027
消費収入の部合計（イ）	60,547	61,686	-	△ 1,139

創立80周年記念寄付金を186百万円いただきました。また備品等の現物資産を88百万円ご寄付いただきました。

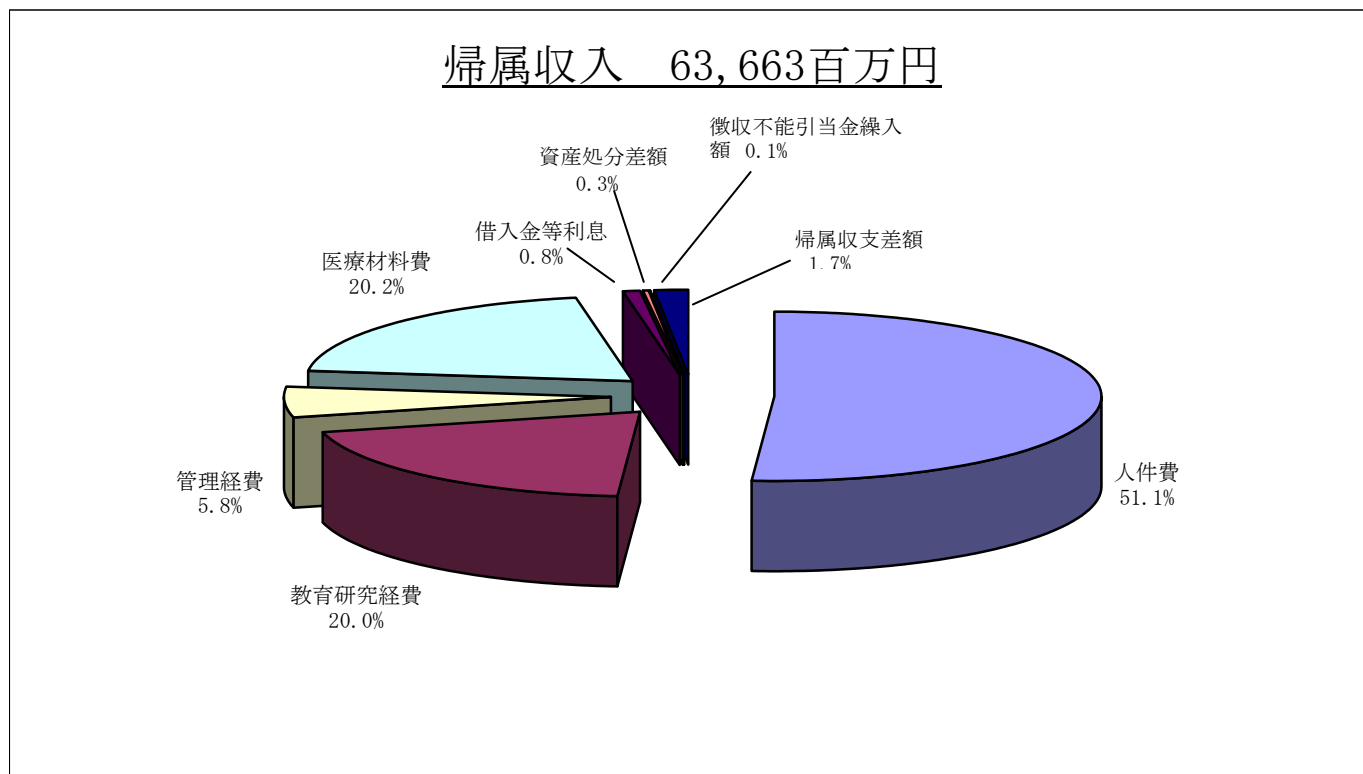
医療収入は入院基本料等の増収効果により対前年度決算比で3.2%のアップとなりましたが、予算は未達に終わりました。

帰属収入とは、その年度の学校法人の負債とならない収入をいいます。従って借入金等はこの収入に含みません。

基本金とは学校運営に必要な資産（土地、建物、備品等）のうち自己資金で調達したものの取得額、あるいは奨学基金等の資産の額をいい、当期は約1.9億円増加いたしました。

- (注) 1. 百万円未満切捨て
2. 予算額は補正後予算

平成18年度消費収支計算書（当該年度における収支の状況を明らかにするもの）



〔消費支出の部〕

(単位：百万円)

科目	予算	決算	帰属収入に対する構成比	差異
人件費	32,809	32,549	51.1%	260
教育研究経費	13,176	12,758	20.0%	418
管理経費	3,898	3,696	5.8%	202
医療材料費	13,423	12,847	20.2%	576
借入金等利息	518	513	0.8%	5
資産処分差額	0	165	0.3%	△ 165
徴収不能額	6	0	0.0%	6
徴収不能引当金繰入額	0	61	0.1%	△ 61
予備費	242	-	-	242
消費支出の部合計（ウ）	64,075	62,593	98.3%	1,482
帰属収支差額（ア-ウ）	△ 524	1,069	1.7%	△ 1,593
消費収支差額（イ-ウ）	△ 3,528	△ 907	-	△ 2,621

予算内には収まりましたが、人件費比率は依然として高く、引き続き圧縮に向けて努力してまいります。

昨年度に比して0.3ポイント低下いたしました。

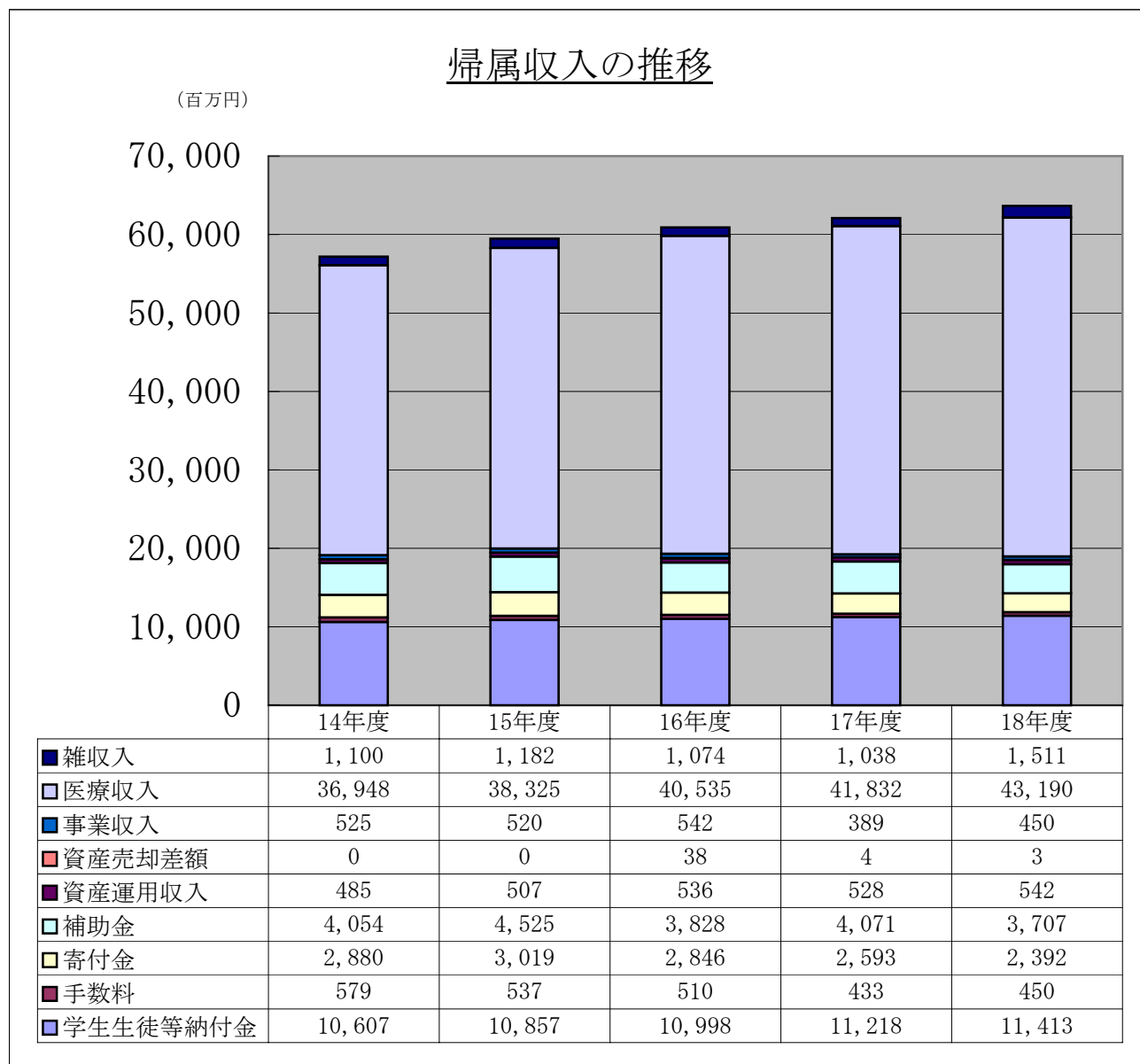
ほとんどが固定資産の除却損です。

企業等の経常利益にあたるものです。

(注) 1. 百万円未満切捨て

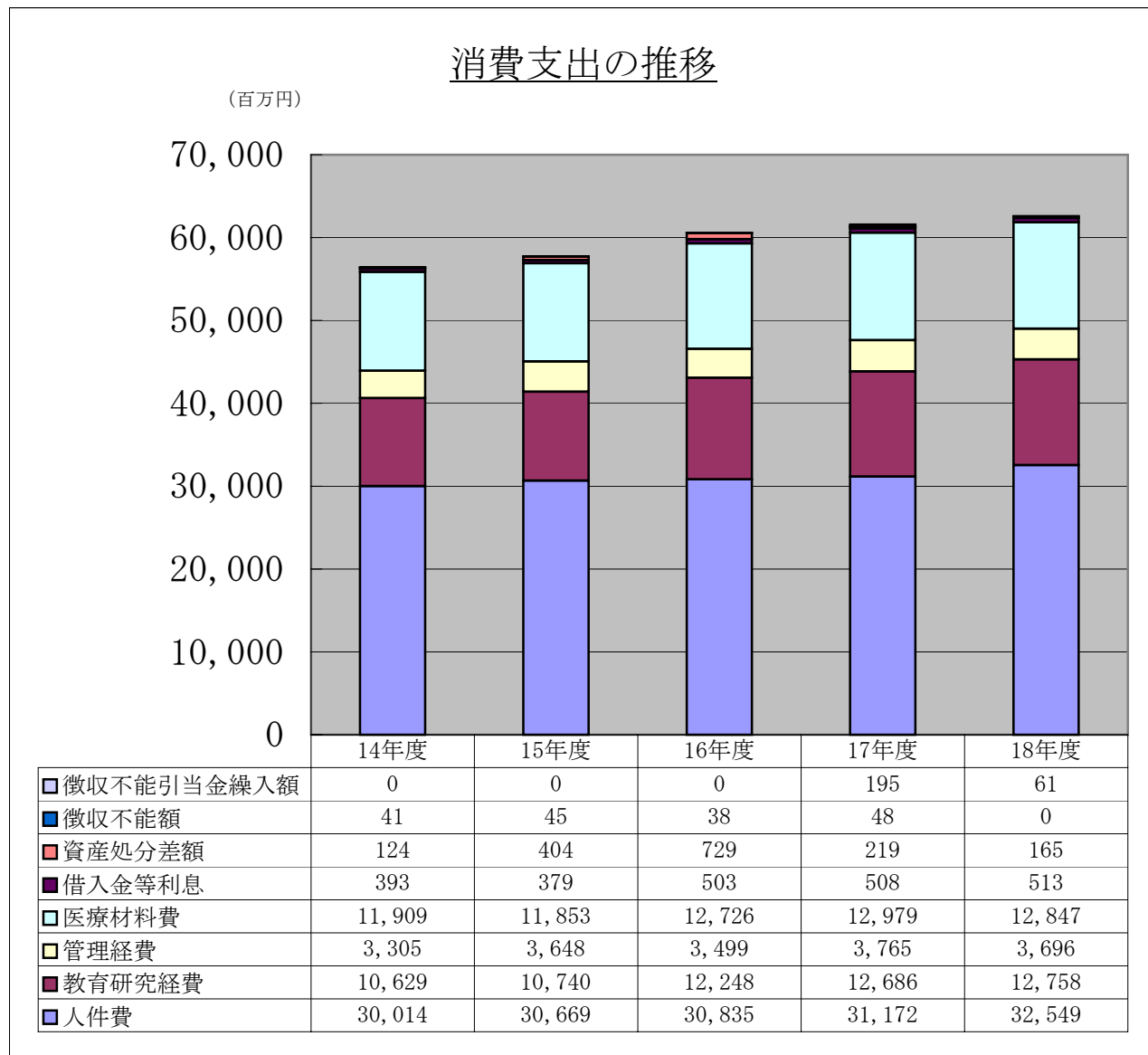
2. 予算額は補正後予算

消費収支決算の推移



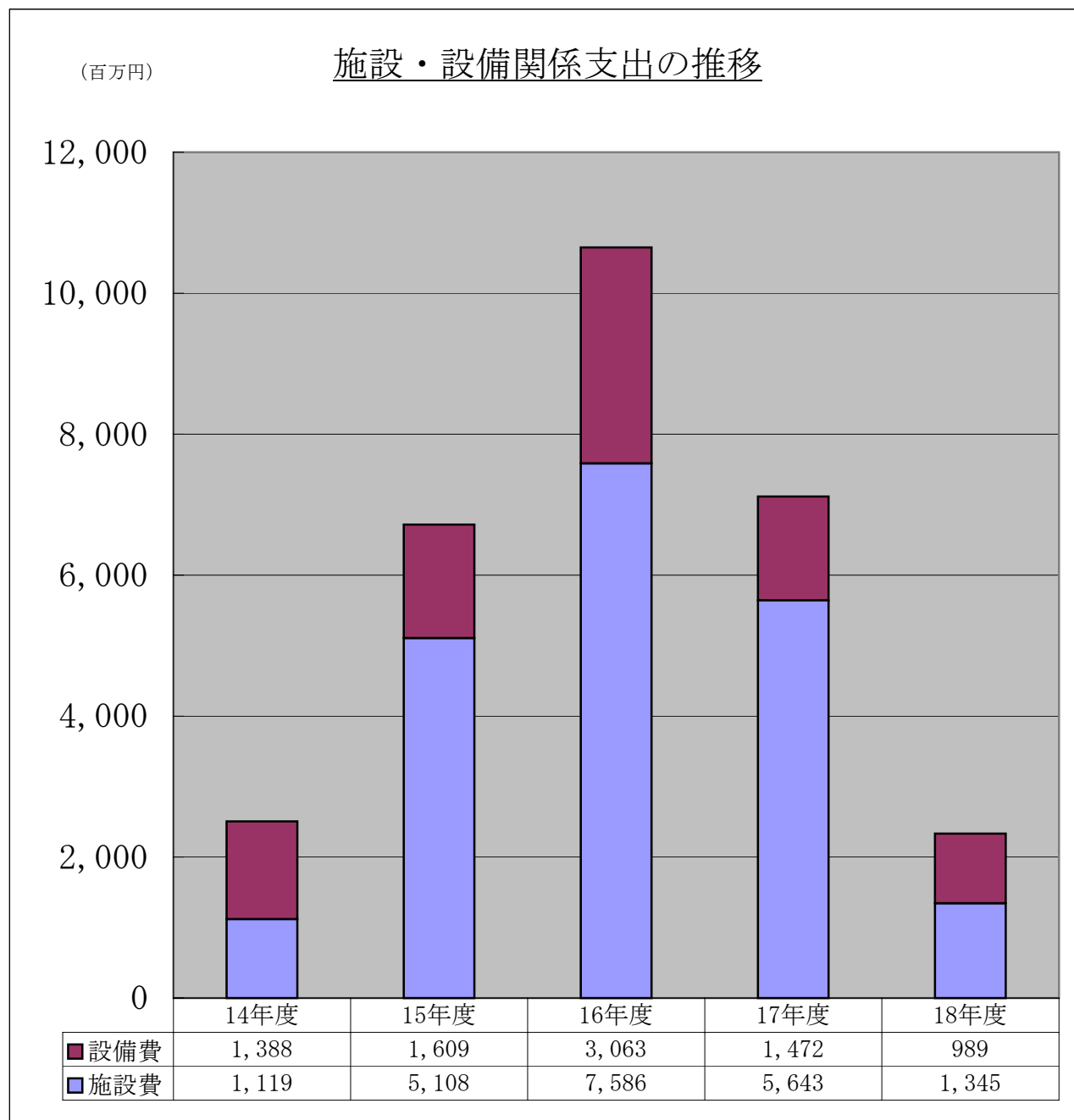
ここ5年間の帰属収入の推移を示しました。 学生生徒等納付金収入は漸増し、一方で補助金収入は頭打ちの傾向にあります。 今後は帰属収入の大半を成す医療収入をさらに伸ばしかつ外部資金の積極的な獲得が本法人の財政基盤をより強固なものにするための必須条件であります。

消費収支決算の推移



ここ5年間の消費支出の推移を示しました。平成18年度では定年退職者及び早期退職優遇制度による退職者もあり人件費支出が増加いたしました。帰属収入に占める人件費の割合は51.1%と昨年度より悪化いたしました、引き続き50.0%以下を目標に努力を続けてまいります。また、近年は施設、設備関係の投資も多く償却負担も増加しておりますが、資産を十分に活用し収入増加に結びつけてまいります。

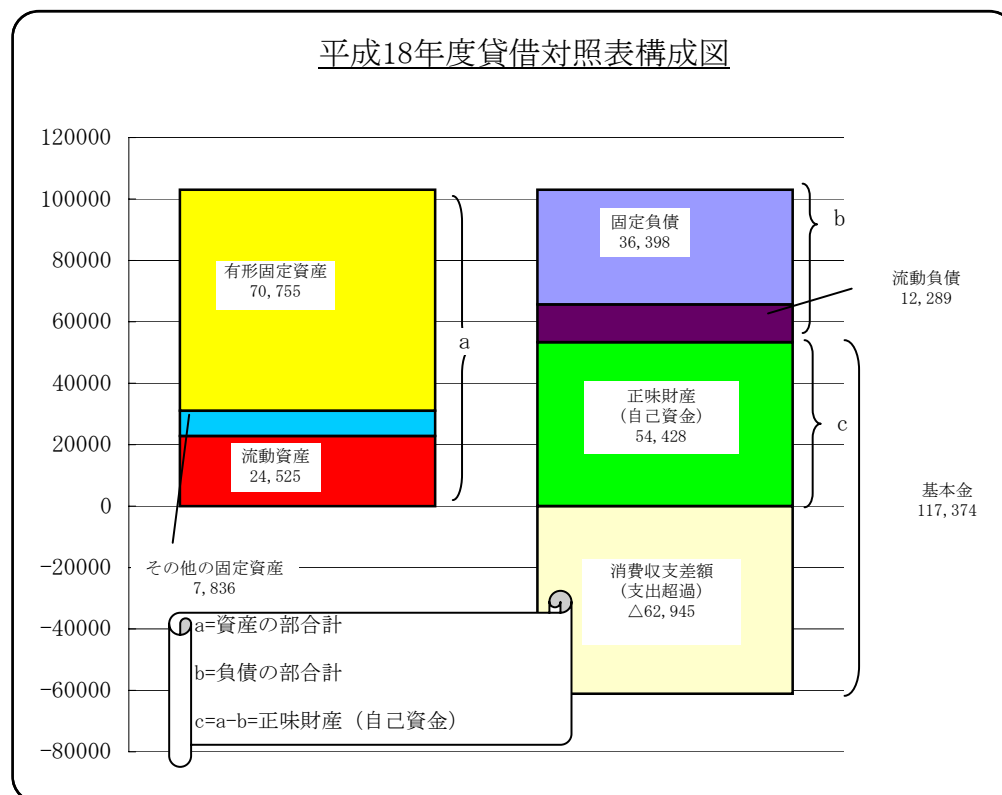
施設・設備関係支出の推移



(参考)	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
施設・設備費計	2,507	6,717	10,649	7,115	2,334
減価償却額	2,949	3,032	3,723	4,010	3,999

ここ5年間の施設・設備関係支出の推移を示しました。平成18年度の施設関係支出では対前年比大幅な減少となりましたが、医学科の校地取得、薬学部の医療薬学教育棟新築工事、東邦中高の校舎耐震補強工事等本法人の将来を見据えた重要な投資を行いました。

貸借対照表の推移

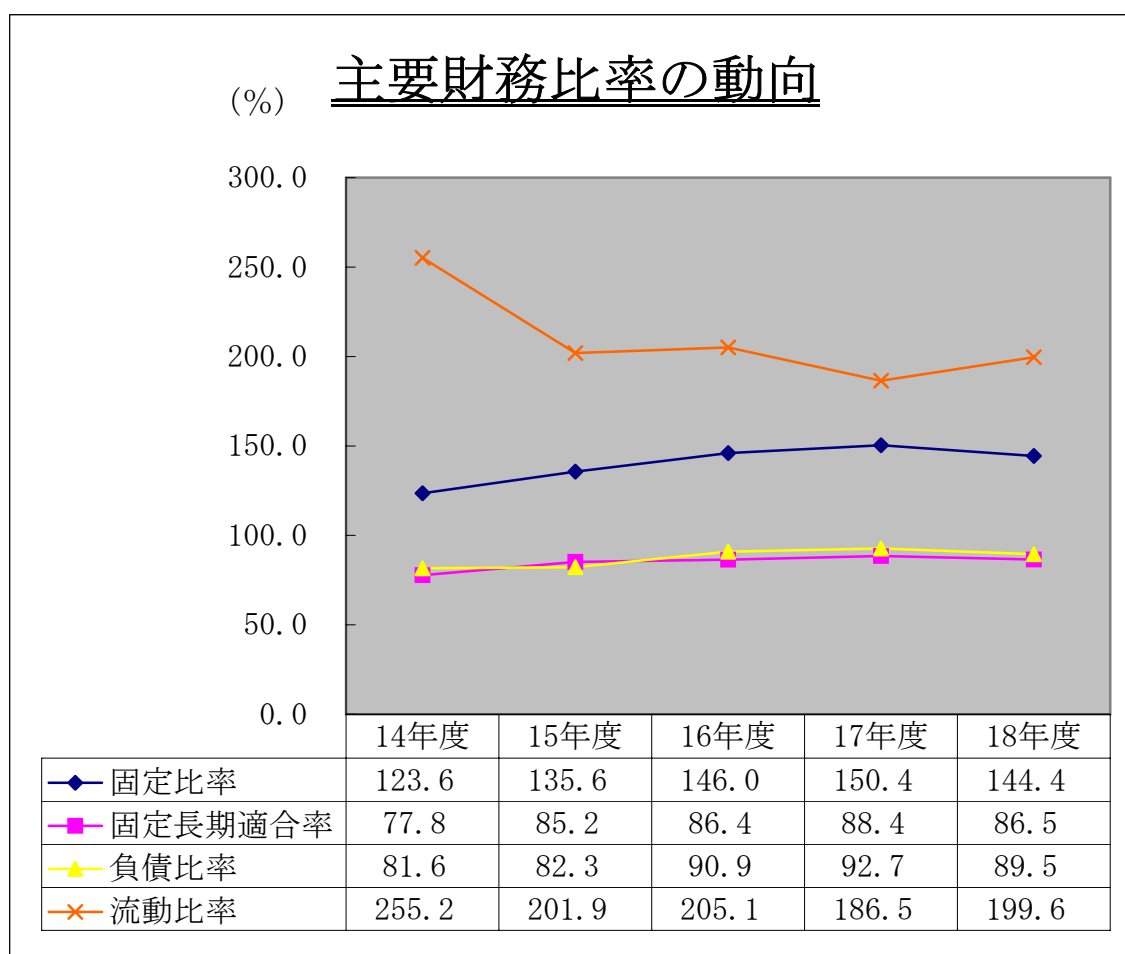


(単位：百万円)

科目	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	5年間増減
固定資産	62,727	71,187	77,137	80,230	78,590	15,480
うち有形固定資産	59,154	62,520	68,850	71,970	70,755	11,020
有価証券	1,610	3,716	3,319	3,319	3,420	2,010
指定金銭信託	0	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
流動資産	29,444	24,490	23,714	22,594	24,525	△ 4,966
うち現金預金	21,618	17,091	15,730	14,519	16,050	△ 6,728
未収入金	7,044	7,176	7,008	7,273	7,844	1,564
有価証券	599	95	896	399	398	138
資産の部合計	92,171	95,677	100,852	102,824	103,116	10,514
再掲(現金預金+長・短有価証券合計) ※注	(23,828)	(23,902)	(22,945)	(21,238)	(22,869)	(△1,580)
固定負債	29,874	31,055	36,462	37,349	36,398	5,338
うち長期借入金	10,819	11,800	16,897	17,712	16,825	4,310
退職給与引当金	19,054	19,254	19,564	19,636	19,573	1,028
流動負債	11,538	12,128	11,564	12,116	12,289	742
うち短期借入金	2,000	2,219	1,681	1,787	1,887	△ 133
未払金	4,560	4,856	4,802	5,029	4,803	252
前受金	4,248	4,251	4,237	4,351	4,466	262
負債の部合計	41,412	43,183	48,026	49,466	48,687	6,080
再掲(長・短借入合計)	(12,820)	(14,019)	(18,578)	(19,500)	(18,712)	(4,177)
基本金	106,119	109,734	112,175	115,397	117,374	13,886
消費収支差額	△ 55,360	△ 57,239	△ 59,349	△ 62,038	△ 62,945	△ 9,452
負債・基本金・消費収支差額の部合計	92,171	95,677	100,852	102,824	103,116	10,514
正味財産(自己資金)	50,758	52,494	52,826	53,358	54,428	4,434

(注) 百万円未満切捨て

※注 平成15年度より指定金銭信託30億円を含む



本法人の財務の健全性を分析するために安全性分析のための指標を示しました。

固定比率 (%) : 固定資産 ÷ 正味財産 × 100

固定資産のうちどの程度が自己資金で賄われているかを示す指標で低いほど良いとされています。

固定長期適合率 (%) : 固定資産 ÷ (正味財産 + 固定負債) × 100

固定資産のうちどの程度が自己資金と長期の借入金で賄われているかを示す指標です。低いほど良いとされています。

負債比率 (%) : 総負債 ÷ 正味財産 × 100

返済義務のある他人資金がどれだけ返済義務のない自己資金でカバーされているかを示し、低いほど財務の安定性が高いといえます。

流動比率 (%) : 流動資産 ÷ 流動負債 × 100

流動比率とは、安全性分析の一指標で、流動負債（1年以内に返済すべき負債）を流動資産（短期間で換金可能な資産）がどの程度カバーしているかを示す比率です。この比率が高い程短期的な資金繰りに余裕があることを示します。